

令和5年度総務文教常任委員会行政視察報告書

日程) 令和5年10月24日(火)～令和5年10月25日(水)
視察先) 長野県中野市
埼玉県志木市
視察者参加者) 委員：森友和 委員長
佐藤俊夫 副委員長
近藤ゆみ 委員
白川克廣 委員
滝沢茂秋 委員
樋口博務 委員
随行：野村直美 議会事務局次長 計6名

長野県中野市

概要)

2005年4月1日に中野市と豊田村が合併して誕生した新「中野市」は、長野県の北東部に位置し、県都長野市からは鉄道で約30分から40分で結ばれている。

北は飯山市、木島平村、東は山ノ内町、南は長野市、小布施町、高山村、西は飯綱町に隣接している。また、斑尾山、高社山など象徴的な山々を背景として、千曲川、夜間瀬川などが形成した河岸段丘や扇状地、穏やかな傾斜地に集落が発達している。

面積は、東西約11キロメートル、南北16キロメートルで、合計面積は112.18平方キロメートル。気温は年間差が大きく、夏季は30度以上、冬季はマイナス10度以下となる内陸性気候。

産業は農業が盛んで、リンゴやブドウの栽培では全国でも有数の品質と生産量を誇っている。早くからエノキダケの栽培に取り組み、キノコや果樹、野菜、花木の施設栽培の先進地としても知られている。

視察内容)

中野市公共施設等総合管理計画についての視察を行った。
計画の中で、①人口減少、②市民一人当たりの延床面積(他市比較)、③更新費用・管理経費の削減額の近郊の三つから総合的に判断して延床面積20%縮減を令和7年までの計画目標としている。

実際の進捗状況を伺ったところ、令和5年9月末時点で

縮減計画面積 23.53% (50,449.14 m²)

縮減面積 17.05% (36,563.88 m²)

増加面積 7.36% (15,868.70 m²)

実縮減率 9.69% (20,695.18 m²)

※令和3年度から10施設の公共施設を売却している。

小学校の統廃合により、市により利活用するものは残し、それ以外は売却を行った。サウンディング調査もおこなったが、応募が少なく判断材料にならなかった。

廃校となった5校のうち、3校はHABLICやタカギセイコーふるさとパークとして活用、そして、社会福祉法人への賃貸借を行い、それ以外の2校は売却をした。

○所感

中野市において、学校の統廃合や、公民館の統合、保育園の民営化等の早期に思い切った施策が断行できるのは、庁舎内の統制が強く効いていること、そして議会对応等がうまくいっているからであった。

公共施設の縮減にかかる担当責任者は、財政課長と公共施設マネジメント推進室を兼務している。また、毎日市長の公約を読み返して業務にあたっているとのことであった。

非常に活発な動きをその話しぶりからもうかがえる情熱的な方であった。

<参考>

「中野市子育て支援拠点施設」：HABLIC（ハブリック）

中心や拠点を意味する「Hub」（ハブ）と公共や周知されたを意味する Public（パブリック）を合わせた造語で、これらの言葉に含まれる公共性、そしてみんなが集まる中心地・拠点として、地域みんなで育んでいきたい想いを込めたものです。

当初の計画では、年間1万人程度の利用者を予定していたが、オープンから半年で2万人弱の利用がある。

小学校の跡地、校舎を活用して設置した。DBO方式（資金調達は中野市で、設計建設運営は民間）。

指定管理者は、松本市内でインターナショナルスクールを運営している。今後 HABLIC の建物（旧小学校校舎）の未利用部分をつかい、自主事業によりインターナショナルスクールの開校を予定している。

<https://www.hublicnakano.com/>（HABLIC ウェブサイト）



「中野市ふるさと交流拠点施設」：タカギセイコーふるさとパーク

小学校跡地を活用して、グラウンド、アリーナ、芝生公園からなる交流施設。

スポーツや音楽などのサークル活動、クラフトフェアやマルシェなど多様なイベントにも利用可能。『タカギセイコー』は医療機器製造会社。ネーミングライツパートナー契約により、施設名に社名が入っている。



○グラウンド（ナイター照明）

- ・400mトラック3レーン（全天候型）
- ・クレイ舗装2レーン
- ・走り幅跳び（全天候・走路幅：1.22m）
- ・多目的グラウンド（人工芝：68m×50m）
少年サッカー＝1面
フットサル＝2面
- ・アイシングプール
- ・パークヨガ、太極拳など
- ・スポーツ以外のイベント利用

○芝生広場

- ・無料でご利用いただけます。
- ・天然芝広場
- ・駐車場 45台
- ・一周約330mの園路
- ・トイレ棟 ・ベンチ

○アリーナ

広さ：30.5m×17.9m（ステージ13.3m×4.5m）

■球技利用

- バスケットボール＝1面
- バレーボール＝1面
- バドミントン＝3面

■ダンス、音楽練習など多目的にご利用

■更衣室、トイレ有り

埼玉県志木市

概要)

市名は、明治7年の合併を県に委ねた結果、「風土記」などにある「志木郷」に由来する。県南西部に位置し、水と緑、人と自然が調和した都市である。

市の中心部を流れる新河岸川ほか三本の川が志木市のシンボルであり、歴史的には舟運で栄えた商業都市として発展。都心から 25 km圏内で交通の便が良く交通上、経済上の要衝地。身近な自然を愛し、健康を育み、平和な社会を目指すことを志木市民共通の願いとしている。志木市将来ビジョン（第五次志木市総合振興計画）で「市民力でつくる 未来へ続くふるさと 志木市」を市の目指す姿として掲げ、重点的かつ具体的に取り組む事項を定めた「しき躍進計画 35」を示し市政を進める。

視察内容)

小学校・公民館・図書館の学社融合施設の運営について

複合施設：志木市立いろは遊学館・いろは遊学図書館・志木小学校

1校2館の複合施設を設置、平成15年より事業を開始している。

志木小学校、志木公民館、志木図書館の老朽化及び耐震化問題の解消と、学校の特別教室の有効活用により市民の生涯学習をより積極的・効率的に推進すること、さらには21世紀という時代の要請にこたえる学社融合の教育施設を目指すことを目的として施設整備が行われる。

○所感

志木市は首都圏の交通アクセスが良好で、ベッドタウンとして多くの子育て世代が居住または移住を検討しているとのことである。それを反映するかのように志木小学校は毎年児童数が増加傾向にあり、600名程度で始まった学校があと2年で1,000名を超える。

このように地域社会の変化が大きい中、子どもたちが自ら学び、自ら考える教育の推進を図る効果的な展開として学社融合施設は機能するものと感じた。地域住民がコミュニティの核として施設を意識し、生涯学習の一環として利用する中で児童との交流が図られる状況は、子どもたちの総合的な学習の場を日常から確保できるひとつの理想形ではないだろうか。さらにはこの世代を超えた学びとコミュニケーションのフィールドは、地域の魅力増進にもつながっていることだろう。このことは、いろは遊学館の施設管理者からお聞きしたお話で、地元の不動産事業者が学社融合施設を地域の資源として捉えており、住宅の相談に来る方々に対して地域に住むメリットとして紹介しているということからも窺い知ることができる。

今後もし加茂市で複合施設を検討するならば、その施設が地域資源として魅力的な存在に位置付けられるような事業展開をしていくことが求められると、今回の視察から強く感じるところである。

<参考>

